



# みみだより

松江ろう学校 支援部

No. R1-4 2019. 12. 24

早いもので今年も残りわずかとなりました。

今号では、「冬の補聴器・人工内耳管理」、「聴覚障がいのある先生から」「幼稚部・小学部の自立活動の紹介」をお伝えします。



## 冬の補聴器・人工内耳の管理



みみだより第1号では、補聴器・人工内耳の汗対策やお手入れ方法についてお伝えしました。冬になると、冬ならではの補聴器・人工内耳の管理が必要になります。

### ☆結露に注意

冬は暖房によって、室内と室外の気温差が大きくなります。そのため、チューブやイヤモールドなどいろいろなところに結露が生じ、トラブルの原因になります。

→補聴器を外したら、できるだけ早く乾燥剤の入ったケースに入れ、しっかり乾燥させましょう！  
イヤモールドやフック、チューブ等の水滴は、こよりなどで吸い取りましょう！

### ☆熱に弱い

冬はストーブなど暖房を使う機会が増えますが、補聴器は熱に弱いです。

→補聴器をストーブの近くなど高温になる場所には置かないようにしましょう！



### ☆電池の寿命が短い

補聴器に使う空気電池は、気温が低いところや乾燥しているところでは、電池の減り方が早くなります。

→必ず、予備の電池を持ち歩きましょう！こまめに電池の残量チェックをしましょう！

電池が冷えている場合は、体温で少し温めてから使いましょう！

※冬休みに入ります。この機会に、ご家庭でも補聴器や人工内耳の管理について話題にしていただけたいと思います。

# 聴覚障がいのある先生から

上田先生と若林先生に、自分の体験談や皆さんに伝えたいことについて書いてもらいました。

## 私と補聴器

高等部 上田 恵先生

私は、生活の中での音がとても心を癒します。例えば、学校では「戸を叩く、引き戸を開け閉めする音、電話が鳴っている音、話しているだろう声、笑い声、チャイムの音」など。細かな判別はできませんが、何気ない日常の中で溢れている音がキャッチできるのは補聴器のおかげです。

小学校2年生で失聴した私は、ろう学校へ転校したとき、箱型の補聴器を両耳につけるように教えられました。右側は籠る感じで音が入るため音を受け入れることができませんでした。だから、学校では補聴器のスイッチを切って過ごしていました（笑）。私なりに、お世話になった補聴器について感じたことをまとめてみました。

時期	使った補聴器の種類	メリット	デメリット
小2 ?	耳かけタイプ	髪でかくせる（肌色で目立たない）。	音が小さい。
小3 ?	ボックス型 1・2代目	音はよく聴こえ、聞き取りの訓練時は調整が可能だった。	コードが長く、両耳2つだと手話を使う時に邪魔になりがち。
中3 ? 社会人 ?	耳かけタイプ（アナログ） 1・2代目（肌色） 3代目（ブルー） 4代目（パープル）	重度難聴者にとって聴こえと軽量感は嬉しかった。 スケルトンでカラフルに。イヤモールドもカラーにできるように。	汗で、電池の周辺がさびる。 小さいので紛失しやすい。 ポケットに入れたままという時は焦る。
現在	耳かけタイプ（デジタル） 1代目（レッド）	音の調整が緻密。自分の中の必要な音をくみ取れる。 本体、フック、イヤモールドが魅せられる。	最初に装着した時は、違和感があるくらい聴こえすぎて恐ろしかった。乾燥ケースに入れるのは大変。

最近、アナログからデジタルへ。さらに、イヤモールドも補聴器本体もカラフルになっており、魅せる補聴器と感じています。聴こえ方は、人それぞれですが、私にとっては大切なパートナーです。大切に扱い、共に過ごしていきたいと思います。

## 大学時代の情報保障

小学部 若林 沙紀先生

ろう学校で働いていて、「大学の情報保障ってどうだった？」と聞かれることが多いので書いてみようと思います。（支援の仕組みや内容については大学によって異なりますし、私が大学生だったときと変わっている部分もあると思うので調べたほうが確実です！）私は大学時代、情報保障を受けながら講義に出席していました。私の場合、講義をする先生や教室などによって聞き取れるかどうかが変わってくるので、学期のはじめは全部の講義に情報保障を希望し、1、2回講義を受けてみて必要な講義だけ改めてお願いするようにしていました。情報保障はノートテイクサービスとPCテイクサービスがありました。講義中、隣の席に座って手書きやPCで先生の話の内容を文字起こしてくれます。どちらも、その講義を履修していない学生がアルバイトでしてくれます。このサービ

スを受けたことで、講義の内容や課題の締め切り、テストの範囲などをきちんと理解することができました。テイカーが先輩だったら、テストの過去問をもらったり、相談に乗ってもらうこともできたりして棚からぼた餅でした。でも、未熟な大学生だったので仲の良い友達が教室の後ろで気楽に講義を受けているのを見て、ちょっぴり寂しい気持ちになることもありました。「私は勉強するために来てるんだ。講義の内容が分からなかったら本末転倒！」と言い聞かせて寂しさを乗り越えました。そんな愚痴をこぼすと「テイカーするよ。バイトにもなるし、色々勉強になるし。」と、テイカーになってくれる友達もいました。とても嬉しかったです。担当テイカーは講義によって大学側が決めるので、友達が担当してくれることは少なかったですが…そんな思い出も含めて、情報保障があったので無事卒業することができたと思っています。大学を卒業して仕事を始めてからも、手話通訳、要約筆記などの情報保障をお願いすることがあります。話されたことが分からない時や、合っているかどうか自信がもてない時って不安になりますよね。情報保障があることで安心して過ごすことができます。とてもありがたいです。



## 自立活動の紹介

今回は、幼稚部と小学部の取り組みを紹介します。

### 幼稚部の取り組み

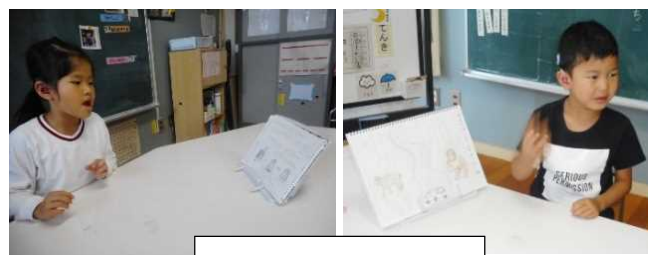
幼稚部では生活言語を豊かにするために経験の言語化を行っています。主に「絵日記」と「今日の振り返り」を各クラス、子どもたちの実態に合わせて行っています。今回は年長学級の「絵日記」と「今日の振り返り」について紹介します。

#### <絵日記>

週末の家庭でのできごとをお家の方と一緒に描いてもらいます。絵日記の題材選びやどの場面を切り取って描くのか、どんな表現で書くのか、親子でやりとりしながら描いていただきます。年長さんになって、絵や文章の一部を自分で描くことも増えてきました。そうして描いた絵日記を週明けに発表し、質問したり質問に答えたりします。自分の絵日記を発表することも、友達の絵日記を見ることも楽しみにしている子どもたちです。

#### <今日の振り返り>

その日のできごとを写真と文章で振り返ります。教員が写真を選び、押さえない言葉を空欄にした文章を書いておき、子どもたちが空欄に適した言葉を考えて記入します。完成した文章を読んで、自分で助詞の部分に○を書くことも上手になりました。家庭に持ち帰ってお家の方にお話をし、サインをもらうようにしています。



絵日記発表の様子



10  
が  
つ  
21  
に  
ち

おもかったです。

ぼくのよりも

Aくんの<sup>お</sup>いもは

はかったら 500


1ばん おおきなさつまいもを

グラムありました。

いもほり

しました。

おもしろい



今日の振り返り

## 小学部の取り組み



小学部では、個別での自立活動と、実態に応じたグループでの自立活動を行っています。グループでの自立活動は、複数で学習することの良さを生かして、児童同士の関わりを大切に学習をしています。今回は、グループでの自立活動の取組を紹介します。

●児童2人で日記発表会をしています。月1回、相手に聞いてもらいたい日記を選んで発表します。読み手は「大きくはっきりした声や手話で相手に伝わるように表現しよう」、聞き手は「相手が伝えたいことを考えながら聞こう」というめあてで取り組んでいます。読み終わった後には、自分で考えた日記の内容に関するクイズをして、伝わったかどうかを確認合っています。お互いどんな反応があるのか、クイズが解けるかなど、相手を意識しながら楽しめる時間となっています。

●小学部1年生2人での日本語の文法の学習では、動詞、形容詞を正しく活用して文を作る学習や、「が」「に」「で」「を」などの助詞の学習を行っています。

例えば、助詞「で」の学習では、「で」には4つの意味（①場所、②道具・材料、③範囲、④原因・理由）があることを学び、意味と手話を併せて確認しました。（以下のような手話表現で表しています。）



4つの「で」を使った文を作って学習を進めていきました。学習の最後には、問題を出し合い、クイズ形式で楽しみながら学びました。



①場所



②道具・材料



③範囲



④原因・理由

●高学年の取り組みを紹介します。主な活動の一つ目は「手話で正しく伝えよう」です。相手の気持ちを考えながら正確に伝えるための工夫を考えたり、相手の顔や手話を最後まで見て聞いたりする学習をしています。相手の表情から伝わりにくいと思う言葉やキーワードは手話と指文字の両方で伝えたり、違う表現に置き換えたりすることが大切だと気がつくようになりました。また、手話や指文字のスピードや大きさなども意識するようになってきました。二つ目は「立場を決めて討論しよう」です。テーマを決めてそれについて賛成と反対の立場に分かれ、自分の意見を理由も添えて発表する練習をしています。友達の意見を聞いて「へえ、そんな考え方もあるんだ。」と気づくこともあったようです。『学校の宿題は必要である』『松江ろう学校の中学部の制服は廃止すべきである』などのテーマでは「ええ～！むずかしい！」と言いながら頭をひねって自分の意見をまとめていました。

これからも、友達との関わりの中で楽しく考えたり、表現したりする学習していこうと思います。